



特集

国際協力への理解の促進に向けた ISAPHの取り組み

ラオスフェスティバル2023にISAPH初出展

国際協力への理解の促進に向けたISAPHの取り組み

ISAPH事務局 村上 麻友子



新型コロナウイルスの影響が少しずつ緩和し、対面でのイベントの開催、参加が増えてきました。今年からISAPHもイベントに参加し、たくさんの方へISAPHの国際協力活動をご報告する機会をいただきました。この度、福岡で開催されたJICA海外協力隊まつり in FUKUOKA、東京で開催されたラオスフェスティバル2023に出展しましたので、ご報告差し上げます。

JICA海外協力隊まつり in FUKUOKA

2023年3月18日(土)、19日(日)の2日間、福岡県の旧福岡県公会堂貴賓館前広場（福岡市中央区）にて、JICA海外協力隊まつり in FUKUOKAが開催されました。

本イベントは、国際協力への理解と関心の向上、JICA海外協力隊参加希望者の増加を目的としており、協力隊経験者や関係者、JICA九州が中心となり開催されているお祭りです。ISAPHは、青年海外協力隊員としてマラウイとネパールへの派遣経験を持つ、福岡事務所の山本と、今年の7月に青年海外協力隊員としてタンザニアへの派遣が決まっているインターンの根田さんと、私の3名で参加しました。

福岡県のJICA海外協力隊経験者が中心となり、飲食ブースでは「おいしい世界の料理」、物販ブースでは「たのしい世界の雑貨」が出店しました。ステージではSDGsに関するクイズ大会や隊員経験者の活動紹介に加え、精華女子高等学校をはじめ市内小中高生による



ステージで発表を行う山本職員

吹奏楽や世界にまつわる舞踏や楽器演奏も行われました。JICA海外協力隊員の派遣されている国（開発途上国）の展示が多く、普段あまり触れることの無い国々の文化を体験でき、非常に楽しいお祭りとなりました。また、この期間を通してJICA海外協力隊への応募に関する個別相談会なども開かれました。ISAPHのブースでは、私たちの活動地であるラオス・マラウイの雑貨やコーヒーの販売、



インターンの根田さんも頑張ってくれました

協力隊経験者である山本の相談スペースを開催し、これから海外を目指す方にアドバイスを行いました。また、1日目、2日目と、山本が自身の協力隊時代のこと、ISAPHでの活動のことについてステージで発表いたしました。

ISAPHの展示も大変好評で、準備してきた商品もたくさんの方が手に取ってくれました。特にラオスコーヒーは大人気で、1日目で完売してしまうほど。また、ISAPHの活動地であるラオスのカムアン県シビライ村に暮らすお母さんが心を込めて織った織物もとても好評で、購入された方の中には、「ISAPHと出会うことができ良かったです。応援しています」と、言ってくださる方もいらっしゃいました。マラウイからはポーチなどの雑貨と、活動地で実際にスタッフが使用しているチテンジと呼ばれる鮮やかな布で作られたエプロンを出品しました。日本ではなかなかお目にかかれない鮮やかな布で作ったエプロンは大変好評でした。今回の売り上げは必要経費を除いた全額を寄付とし、ISAPHの現地での活動のために大切に使用いたします。ご購入いただいた皆様、ありがとうございました。ぜひ、ご家庭で遠いラオスとマラウイを身近に感じてもらえたらと思います。

このイベントが多くの方にとって、国際協力について考えるきっかけ、そしてJICA海外協力隊や国際協力の輪を繋いでいくきっかけになればと思います。

最後になりますが、このような機会をくださったJICA九州の皆様、ご来場いただきISAPHのブースに来てくださった皆様、ありがとうございました。

ラオスフェスティバル2023

皆様はラオスへ行ったことがありますか？「日帰りできるラオス」ことラオスフェスティバル（以下、ラオフェス）が5月27日(土)、28日(日)の2日間、代々木公園（東京都渋谷区）にて開催されました。ラオフェスは日本とラオス人民民主共和国（以下、ラオス）の友好親善を目的に、相互の発展に繋げていくきっかけとなるべく、2007年から始まり、回を重ねるごとに来場者が増え、来場者約15万人の国内最大規模のラオスイベントとなったお祭りです。新型コロナウイルスの影響で2020年からは中止となっていたが、この度4年ぶりに開催され、ラオスで活動を行うISAPHも初参加させていただきました。

2日間ともにお天気に恵まれ、非常に多くの方がご来場されました。たくさんのラオス料理の屋台、ラオスの雑貨やコーヒー豆を販売するブースに、ステージではラオスから来日したアーティストの公演や、伝統的な歌や踊り、そして広場ではパレードととても賑やかな2日間でした。

ISAPHは今年の3月にラオスから帰国した看護師の安東とカンボジア人インターン生のNara Kunthyさんと私の3名でNPOブースにて参加しました。ISAPHのブースでは、団体の設立からラオスでの長年の活動についての展示を行い、活動のPRを行いました。お話しをさせていただいたお客様の多くは旅行でいった経験がある方やお仕事でラオスへ渡航されていた方、ラオスの料理や文化が好きな方など、ラオスに何かしらのルーツや関心を持つ方々が多かったのですが、ISAPHが取り組んでいる課題については知らないという方が多く、病院が設立したNPOであること、看護師や医師が活動に携わっていること、根拠に基づく活動を行っていることを理解してもらい、熱い応援をいただくことができました。

かつてニューヨーク・タイムズ紙でも「世界で一番行きたい国」に選ばれたこともあるラオスですが、都



パレードの様子

市部や観光地以外の一般の観光客が行くことができない農村部では、未だ健康や暮らしに関する様々な問題が残っています。予防できたはずの病気で命を落とす子どもたちやお母さん。産まれることができて、その後の栄養不良状態が原因で、発育が阻害されている子どもたち。その子どもたちやお母さんたちを実際に現地で見えて、触れ合ってきた安東だから分かること、経験から語られるリアルな話にブースにお越しいただいた皆様は耳を傾けてくださいました。

また、会場へはISAPHを賛助会員として応援してくださっている方々や、スタディツアーなどでお世話になっている大学関係者の皆様など、たくさんの方がブースに来てくださり、応援や差し入れを頂戴しました。お忙しい中、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年のラオフェスも参加させていただきたいと思いますので、「日帰りラオス」に皆様も是非いらしてくださいね。



活動について説明する安東職員



ご来場いただいた皆様、ありがとうございました！

インターンからの活動報告

国際保健のキャリア構築 に向けての第一歩

根田 あかり



2023年1月から3月までISAPHでインターンとして活動した根田あかりです。インターン中は、たくさんを経験し、実り多い時間となりました。広報イベントのお手伝いをしたり、国際協力やNPOの変遷や現状を学んだり、昆虫食を実食したり、マラウイやラオスの活動の話を聞いたり、いろいろな経験をすることができました。特に学び多き経験となったことは、「アイサップチ進路相談会」というイベントを自分で企画したことと「在留外国人の支援者への調査」に関わらせてもらったことです。

1つ目の「アイサップチ進路相談会」は、国際保健のキャリアを歩んでいる方を登壇者として招き、経歴を語ってもらいながら、参加者からの相談を受けるという趣旨で2回開催しました。企画する時は、自分が国際協力分野でキャリアをスタートしていない今だからこそできることを考えました。かつての自分のように「進路に悩める学生・社会人」を対象に、国際協力のキャリアを始める前までに知っておきたかったことを伝えたいと思いました。企画内容を考えている時は、うまくいくという妄想が膨らむのでアイデアが湧いてくるのが楽しく、自分は考えることが好きなんだと実感しました。しかし、自分が思い描いたものを実際の形にしていく過程では、諸々の作業で問題が生じ、手間と時間がかかることを痛感しました。イベントを開催するまでの手順、事務作業やビジネスマナーを学びました。この経験を通して、自ら考え、行動して、問題が起きたら解決案を考えて、再び行動するという今までにない新鮮な経験をしました。

2つ目の「在留外国人の支援者への調査」では、実態調査のいろはを学びました。研究計画書の説明では、問題背景から研究目的・方法まで綿密な準備がされていることがわかりました。社会課題に対して、問題がどのように起こっているのか、困っている人は誰か、どうして問題が起こるのか、その原因を深掘りし、「これはこう、ということはこうで、ということはこうで…」と多角的かつ深く原因を考えることが大事だと学びました。研究計画の段階で、どことどこが繋がっていて、その繋がりを辿り、問題解決に取り組むという長い道のりの始まりを学ぶことができました。アンケート調査では、言葉一つひとつに気を配る必要があり、作る側と答える側の壁を感じました。今まで何気なく答えていたアンケートも作る側の立場となると、回答者の視点になって考えることが難しかったです。与えられた課題を言われた通りにやるのではなく、自分からこの研究をしたいと思える研究をやってみたいと思いました。

2カ月半のインターンを通して、これから青年海外協力隊員として活動する心構えや自分の現状とあるべき姿、先輩一人ひとりの考え方を聞くことができ、今後の自分の活動がより充実していくものになりそうです。もしインターンに参加していなければ、国際協力活動が雲の上の実態がつかめない「憧れ」のままであり、独りよがりな考えで活動をしていたかもしれません。インターン中は目の前のタスクを消化することに必死でしたが、今後はISAPHのために何か自分ができることをして、恩返しをしていきたいです。ISAPHの職員の皆様のご活躍とご健勝をお祈りします。ありがとうございました。



JICA 海外協力隊まつり in Fukuokaに参加



アイサップチ進路相談会を企画運営

ラオスの地域母子保健事業から得られた知識と経験

長崎大学大学院
Chan Nyein Aung



私は地域に根差した母子保健活動の実際を学ぶために、ラオス事務所で1カ月間のインターンをしました。その結果、ISAPHが政府やコミュニティの関係者と調整を図り、根拠に基づいた複数の母子保健・栄養改善事業を行っていることがわかりました。地域母子保健事業では、アウトリーチ活動に同行し、サービスの実態を見学しました。看護師が村に出張することで、妊婦さんは村の中で健診を受けられるばかりでなく、家族と一緒にバースプランを立案することで、安全な施設分娩を促進できていることがわかりました。また、食用昆虫養殖技術普及事業では、不足しがちな栄養素を補う目的や生計向上を支援する目的でゾウムシと呼ばれる食用昆虫の養殖技術を普及していることを学びました。養殖世帯は自主的に必要な材料を集め、幼虫を継続的に生産し、自家消費したり、市場で売ったりしていました。

渡航前は言葉の壁を心配していましたが、関係者に温かく迎え入れてもらい、とても安心しました。滞在を通して、簡単なラオス語で挨拶や感謝の気持ちを伝えることができるようになり、皆さんと良い関係を築くことができたのも嬉しい思い出です。政府とコミュニティとISAPHがパートナーシップを結んで活動することで、限られた人的・物的資源しかない農村部であったとしても、効果的な母子保健・栄養改善活動ができていることがわかりました。この学びと経験は母国ミャンマーのへき地における母子保健戦略にも活かせるという実感が得られました。このような貴重な機会を得られたことに深く感謝するとともに、得られた教訓を今後の自分の研究や仕事に活かしていくことが楽しみです。



ナノイ保健センターにてアウトリーチ活動メンバーと共に

東京事務所インターンから得た3つの大きな学びと経験

長崎大学大学院
Nara Kunthy



2023年4月3日から5月31日まで、ISAPH東京事務所でインターンをする素晴らしい機会をいただき、主に3つの大きな学びと経験をしました。

1つ目は、日本の在留外国人が医療機関にアクセスする際に抱える課題について質的な調査をしたことです。10数人にインタビュー調査を行ったところ、多くの外国人が言葉の壁によって、診察や薬の受け取り時に苦労した経験があることがわかりました。行政が通訳支援などのサービスを行っているという情報はあまり浸透しておらず、コミュニケーションに困った時は友人に頼ることが多いことが明らかになりました。しかし、突発的な病気やセンシティブな病気の時には1人で受診せざるを得ない場面もあり、社会的支援のニーズがあることがわかりました。2つ目は、ラオスの農村地域における母子保健課題に対する包括的な取り組

みについて学びました。妊産婦健診や施設分娩などの無料の保健医療サービスがあまり利用されていないという課題に対して、ISAPHがアウトリーチ活動に同行して、行動経済学の視点から啓発教育や技術指導をしていることについての見識を深めることができました。3つ目は、日本国内のラオスフェスティバル2023にISAPHの職員の一人として参加できたことです。様々な背景や文化を持つ人々と交流し、ネットワークを広げ、異なる視点への理解を深めることができました。

このような貴重なインターンの機会を与えてくれたISAPHの皆様には心から感謝の意を表します。ISAPHでのインターンで得た学びと経験は、私の公衆衛生におけるキャリア形成を後押ししてくれると確信しています。



ISAPH東京事務所での修了式

ラオスからの報告

暮らすならどこ？ 日本、マラウイ、ラオスの違い

ISAPH事務局 山本 作真



これまで、国外ではマラウイ事務所に駐在していましたが、今回ついにラオスで1カ月滞在する機会を得ました。本来は、現地機関との会議など業務の報告をすべきですが、滞在中はどうしてもマラウイとの違いが気になりました。そこで、ISAPHの活動国ラオスとマラウイ、そして日本の違いを見てみましょう。国内にも地域差があること、筆者の主観であることはお含みおきください。

【人口密度】

-  世界トップレベルで平地はどこでも住宅がある
-  面積も人口も、北海道と九州を合わせたくらい
-  本州の面積に埼玉県の人口

【気候】

-  冷房も暖房もないと無理
-  暑すぎず寒すぎず、冷暖房なしで暮らせる
-  風通しの良い高床式住居か冷房がないと無理

【地下資源】

-  昔は金銀や石炭、今はほとんど何も採れない
-  レアメタルや宝石、小規模なので今のところ平和
-  金銀スズ、カリウム等。中国が物凄い勢いで進出

【電力】

-  7割が輸入の化石燃料、停電すると報道される
-  街は国内の水力で毎週停電、村は各家庭の太陽光
-  国内の水力。ほぼ停電せず余剰分は周辺国に販売

【国外の食文化の影響】

-  世界中の料理店があり家庭でも外国料理を作る
-  イギリス式。それ以外の料理店は都会にしかない



 マンゴー、昆虫、オタマジャクシなど多様な食材が並ぶ市場

 タイ中国ベトナムと接し旧仏領で何でも美味しい
【食べる動物の種類】

-  牛豚鶏の他、魚介類はかなり自由に何でも
-  牛やギョウ、川魚、まれに豚やネズミ等。かなり狭い
-  家畜、野生動物、昆虫まで、ほとんど何でも

【お酒】

-  酒類が豊富で日常的に飲酒する人も多い
-  ビールが主だが、酒が強い人をほとんど見ない
-  ビールが主で、多くの人がたくさん飲む

【子どもの日常】

-  大半が高校卒業かそれ以上まで学校に通う
-  ドロップアウトも多いが児童労働は一応タブー
-  店番などの労働やバイク運転など割とフリーダム

【治安】

-  犯罪被害に遭うこと自体が滅多にない
-  周辺国の中では穏やかだが夜道は大人も歩けない
-  幼児が夜道を歩けるほど安全だが窃盗は多い

【人の距離感】

-  知人か見知らぬ人かで対応が大違い
-  通りすがりでもバスで隣り合った人も普通に話す
-  フレンドリーだが往来で話しかけられはしない

【失業したら】

-  セーフティネットはあるが世間体が気まずい
-  隣近所で農作業などの日雇い労働をして食い繋ぐ
-  自然環境に何かしら食べ物があり親戚に居候でOK

【栄養問題】

-  飽食でカロリーや塩分が過多
-  タンパク質やビタミンAが不足、4割弱が低身長
-  油やビタミンB群が不足、4割弱が低身長

「イメージと違う」という項目もありましたか？
住むならどの国が良いと思いますか？ある国で感じる悩みは、国が変わると大抵どうでもよくなります。なので、個人的には、それぞれの国の真夏と真冬を回避しつつ、果物が美味しい季節を渡り歩くのが理想です。



 トマト、落花生、マンゴーなど。食材の種類は、ごく限定的



マラウイからの報告

マニャムラ地域での 離乳食調理実習の現在

ISAPH マラウイ 浜中 咲子



JICA 草の根技術協力事業が終了した2021年12月以降、事務所は現地職員の能力強化研修や前事業から発展的な活動をするためのトライアル事業を行い、次期事業の準備をしています。今回は、前事業から発展した離乳食調理実習の現在について紹介します。

前事業において、栄養が十分に取れていない子どもを家庭訪問した結果、お母さんたちは精製した白いトウモロコシをお湯に溶いただけの質素なお粥を与え続けている傾向があることがわかりました。そこで、離乳時期の子どもを持つお母さんたちが集まりやすい乳幼児健診会場で、とうもろこしの全粒粉と多様な食材を取り入れた調理実習を始めました。ISAPHが開催していた当初は事務所が材料費や薪代等の予算を出していたため、参加対象を6～9カ月の子どもを持つ親に限定していました。しかし、将来ISAPHがマニャムラを離れるまでに、現地の力で継続していく必要があると話し合いを重ねた結果、昨年9月から実習の開

催主体を村人に移行しました。その結果、今年の1月以降、ほとんどの乳幼児健診の会場で、村人たちが自発的に材料を持ち寄り、離乳食調理実習を開催することができるようになりました。「地域のお母さんたちが興味を持ち、乳幼児健診に来る人が多くなった」、「5歳未満児全員に多様な食材を含むお粥を与えたい」等、事務所が想定していなかったポジティブな感想を村人たちから聞くことができました。

今後は開催主体が変わったことで、健診の参加者が増えているのか、多様な食材を含むお粥を食べられるようになっているのか等の情報収集を行い、事業の持続と拡大に活かしたいと考えています。



参加経験のあるお母さんが中心となって離乳食調理実習を開催

決算報告

2022年度収支決算報告

項目	金額	内容
前年度繰越金	16,397,126	
収入	14,917,359	
収入内訳	690,000 220,130 4,900,000 8,531,517 575,712	会費 寄付金 助成金・補助金 事業収益（業務委託等） その他
支出	12,411,897	
支出内訳	9,319,289 523,474 337,596 1,123,823 966,439 141,276	国際協力事業（ラオス） 国際協力事業（マラウイ） 教育・研修事業 調査・研究事業 管理部門 その他（雑費・法人税等）
収支差	2,505,462	
2022年度末期預金額	18,902,588	

2023年度予算

項目	金額	内容
前年度繰越金	18,902,588	
収入	12,250,000	
収入内訳	750,000 300,000 4,200,000 7,000,000	会費 寄付金 助成金・補助金 事業収益（業務委託等）
支出	13,700,000	
支出内訳	8,000,000 1,500,000 400,000 2,500,000 1,000,000 300,000	国際協力事業（ラオス） 国際協力事業（マラウイ） 教育・研修事業 調査・研究事業 管理部門 その他（雑費・法人税等）
収支差	△ 1,450,000	
2023年度末期残高	17,452,588	

最近のできごと

2023年2月～5月

- 1月20日～3月31日 根田あかり氏をインターンとして受け入れ
- 2月11日 福岡教育大学付属小学校で講義を実施
- 2月12日～19日 【ラオス】
山梨県立大学のスタディツアーを受け入れ
- 3月12日～18日 【ラオス】
大野可和世氏のフィールド調査を支援
- 3月14日～18日 【ラオス】
竹田早希氏をインターンとして受け入れ
- 4月～5月 Nara Kunthy氏をインターンとして受け入れ
- 4月25日 開智国際大学で講義を実施
- 5月8日～6月7日 【ラオス】 ISAPH事務局の山本をラオスに派遣



編集後記

今号よりISAPHニュースレターの編集を担当することになりました安東です。ラオスから帰国して気づいたことは、日本には魅力的な甘いお菓子が豊富にあることです。ラオスでは、グリーンマンゴーをおやつとして食べていましたが、帰国後に最初に口にした食べ物はあんドーナツでした。ISAPH東京事務所の近くには有名な和菓子屋さんがあり、数日前に食べた最中のあんこは格別でした。

甘い食べ物の誘惑に弱いという自覚があるので、できる限りヘルシーな間食やランチになるように意識しています。今日のおやつは健康的な(?)レーズンを選んだつもりでしたが、大容量サイズのレーズンのため食べ過ぎてしまいました。やはり小分けになっている商品を買うべきでした。さて、みなさんのお気に入りのおやつは何でしょうか? (安東)



入会と寄付のお願い

ISAPHの活動を発展させるために、一人でも多くのご入会・ご寄付をお待ちしております。

寄付

いつでも、いくらからでも
お受けいたします。

賛助会員

法人 年会費：30,000円
個人 年会費：3,000円

※ご入会の方にはニュースレターをお送りします。
また、オンラインサロンに参加することができます。

【お支払い方法】

●クレジットカード
でのお支払い

Syncable



●郵便振込 口座名 特定非営利活動法人ISAPH
口座番号 00180-6-279925

——— 特定非営利活動法人ISAPH ———

【福岡事務所】

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422番地
聖マリア病院 国際事業部内 TEL.092-621-8611

【東京事務所】

〒105-0004 東京都港区新橋3-5-2 新橋OWKビル3階
TEL.03-3593-0188 FAX.03-3593-0165
E-mail jimukyoku@isaph.jp URL https://isaph.jp/

ISAPHの役員名簿

役職	氏名	備考
理事長	小早川 隆敏	東京女子医科大学 名誉教授
理事	浦部 大策	医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック 医師
理事	江藤 秀顕	神山復生病院 病院長
理事	渡部 和男	元特命全権大使
監事	竹之下 義弘	東京六本木法律特許事務所 弁護士

【ISAPHニュースレター 第45号 編集スタッフ】

安東 久雄／石原 潤子

社会医療法人
雪の聖母会



聖マリア病院

理事長：井手 義雄 病院長：谷口 雅彦

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942-35-3322(代) FAX.0942-34-3115
URL http://www.st-mary-med.or.jp

- 厚生労働省臨床研修指定病院
- 厚生労働省歯科臨床研修施設
- 厚生労働省臨床修練病院
- 地域医療支援病院
- 福岡県救命救急センター
- 福岡県総合周産期母子医療センター
- 福岡県救急告示病院
- 福岡県地域災害拠点病院
- 福岡県エイズ治療拠点病院
- 福岡県肝疾患専門医療機関
- 福岡県災害派遣医療チーム指定医療機関
- 福岡県第二種感染症指定医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 福岡県小児救急医療電話相談施設
- 福岡県児童虐待防止拠点病院
- 久留米広域小児救急医療支援施設

- 自動車事故対策機構NASVA療護施設
- ISO 9001 認証施設
- ISO 15189 認定施設
- 日本医療機能評価機構認定施設
(一般病院2 〈3rdG: Ver.1.1〉)
- 日韓医療技術協力指定病院
- 久留米市病(後)児保育施設

※本ニュースレターの発行は、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院にご協力をいただいています。